

個人金賞・団体優秀賞を 5年連続で鹿児島がW獲得

第44回九州管内系統和牛枝肉共励会

44回目を数える「九州管内系統和牛枝肉共励会」が開催され、大雨や新型コロナウイルスなどの影響で厳しい経営環境に置かれながらも、九州管内の生産者が高い肥育技術を競い合った。今大会においても、個人・団体ともに鹿児島県勢の強さが際立った。



表1. 本共励会の平均と全国平均(黒毛和種去勢)

	枝肉重量 (kg)	ロース芯面積 (cm ²)	バラの厚さ (cm)	皮下脂肪 (cm)	BMS No.
第44回九州管内系統和牛枝肉共励会	520.3	81.9	8.9	2.3	10.5
前回平均	523.8	76.4	8.9	2.2	10.2
全国平均(令和元年度)	506.7	64.3	8.2	2.5	7.6

表2. 第44回九州管内系統和牛枝肉共励会 上位入賞牛

賞	系統名(県連名)	出品者名	出荷月齢	血統			生体重 (kg)	枝肉重量 (kg)	歩留 (%)	格付	ロース芯面積 (cm ²)	バラの厚さ (cm)	BMS No.	枝肉単価 (円)
				父	母の父	母の祖父								
金賞	鹿児島	旬うしの中山	28	若百合	華春福	安福久	819.0	573.7	70.0	A5	121.0	10.3	12	7,000
銀賞1席	熊本	株佐々畜産	29	百合茂	安福久	平茂勝	869.0	600.4	69.0	A5	118.0	10.4	12	5,000
銀賞2席	鹿児島	株中山畜産	29	若百合	安福久	平茂勝	819.0	557.7	68.0	A5	104.0	10.2	12	4,500
銀賞3席	長崎	小川 博信	27	勝乃幸	美国桜	百合茂	722.0	483.5	66.9	A5	112.0	9.3	12	4,000
銅賞1席	鹿児島	五反田 一郎	30	金華好	安福久	勝忠平	845.0	560.6	66.3	A5	98.0	10.5	12	3,500
銅賞	佐賀	中山牧場株	29	百合茂	安福久	金幸	789.0	526.2	66.6	A5	87.0	9.5	12	3,300
銅賞	鹿児島	宿徳重和牛人工授精所	29	幸紀雄	美国桜	百合茂	843.0	586.8	69.6	A5	112.0	10.8	12	3,300
銅賞	長崎	長與 和則	28	平茂晴	安福久	北国7の8	819.0	542.2	66.2	A5	99.0	9.5	12	3,300
銅賞	福岡	中原 英機	28	勝乃幸	平茂晴	安福久	761.0	501.0	65.8	A5	95.0	8.7	12	3,300

九州管内8県の生産者が 134頭の和牛を出品

9月5日、九州管内の和牛の肥育技術向上と肉質改善を目的とする、第44回九州管内系統和牛枝肉共励会が開催された。コロナ禍にあつて褒章式は中止されたが、九州管内8県の肥育農家から黒毛和種雌8頭、去勢125頭、褐毛和種雌1頭の計134頭の出品があつた。

本大会運営協議会の原川竜也会長(JA全農福岡畜産生産事業所長)は主催者を代表し、「本年も九州管内の各県から選りすぐりの和牛が勢揃いしました。日頃から和牛肥育に心血を注いでおられる生産者のご努力に心から敬意を表します」と挨拶。和牛枝肉相場が著しく落ち込む苦境にある中、「九州が日本の畜産を振興する」という生産者や関係者の熱い思いが託される大会となつた。

黒毛和種去勢の平均重量は520.3kg(全国平均は506.7kg)。歩留基準値は平均77.5で、75以上が88.8%にのびつた。胸最長筋(ロース芯)面積は平均81.9cm²と全国平均64.3cm²を大幅に上回り、100cm²を超えるものが19頭も見られた。BMS No.は平均10.5で、前回大会に続いて2桁に達した。

芳野陽一郎審査委員長(公益社団法人日本食肉格付協会専務理事)は、「枝肉重量と比較しても、ロース芯面積、バラの厚さ、皮下脂肪の厚さともに充実し、歩留基準値の高い枝肉が揃いました」

と評価。「猛暑、台風、大雨等、牛を育て上げるには厳しい環境ではありますが、更なる高みを目指し高品質和牛の生産に取り組んでいかれるよう期待しています」と生産者へのエールを送つた。

鹿児島県の生産者が 満票で個人金賞を受賞

審査の結果、鹿児島県JA鹿児島きもつきの旬うしの中山が出品した「誠司12」(若百合×華春福×安福久・月齢28)が栄えある金賞を受賞。枝肉重量573.7kg、ロース芯面積121cm²、バラの厚さ10.3cmで、皮下脂肪の厚さが2.3cmとやや薄めな事もあり、83.0という極めて高い歩留基準値を示した。

審査講評では「肉量が充実し、外観的にも申し分のない枝肉でした。細かい脂肪が万遍なく交雑して見た目も美しく、脂肪の質もずば抜けて良好。光沢・粘りとも優れ、食欲をそそるものでした」と評された。旬うしの中山は、鹿屋市の農場で約4800頭を肥育している。代表の中山高司さんは、「牛飼いを始めて45年になります。今回の金賞受賞は、従業員や家族のたゆまぬ努力、そしてJA全農をはじめとする各関係機関の皆さまのご支援の賜物です。これからも、金賞に恥じない牛飼いとして精進を続けます」と喜びの言葉を口にしました。

団体優秀賞は、JA鹿児島県経済連が獲得。5年連続受賞という偉業を達成した。

団体優秀賞

まずもって、生産者の皆さまに感謝申し上げますとともに敬意を表します。今回の出品牛の選定にあたり、私ども「チーム鹿児島」は生産者との定例巡回をはじめ、生体検査や超音波診断等を実施してきた事が実を結びました。このような立派な成績を取られたのは、生産者・JA等関係者が日々切磋琢磨し、飼養管理技術の向上に努力を積み重ねてきた結果であり、また永年築いてきた育種改良の成果でもあります。まさに「鹿児島島の誇り」です。

今後も引き続き「日本一の鹿児島黒牛」を安定的に供給できるよう取り組みを強化して参ります。

JA鹿児島県経済連
会長 柚木 弘文氏

金賞

中山 高司さん
(有)うしの中山
(鹿児島県JA鹿児島きもつき)

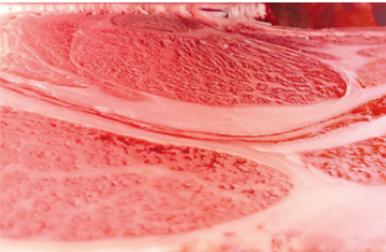
出品するだけで意義あるこの共励会で金賞を受賞できた事を嬉しく思います。今後も、牛の持つ能力を最大限に発揮させる肥育に努めます。




銀賞1席

佐々 隆文さん
(株)佐々畜産
(熊本県JA菊池地域)

思いがけない好成績に驚きと喜びを感じています。人の手とITによるきめ細かな個体管理の徹底が、この結果につながったのだと思います。

銀賞2席

中山 正美さん
(株)中山畜産
(鹿児島県JA鹿児島いずみ)

今回の銀賞2席受賞には、大変驚いております。今後も引き続き、皆さまのご支援をよろしく願っています。




銀賞3席

小川 博信さん
(長崎県JA島原雲仙)

父・勝乃幸の血統の良さを引き出すことができました。今後も消費者に「美味しい」といっていただける和牛生産に注力します。